

2022（令和4）年度 東京大学 入試問題 第4問（文系） 解答例

一 筆者のいた、巨大な火口のみ見える無音の時空では、筆者の意識は人間の眼に感知しえない絶対的な力に捉えられていたから。

* 東大は小説を出題しない。ここでも随想であるから、「私」は「筆者」とすること。

* 「そこでは」＝「巨大なクレーターだけが見える場所では」＝「沈黙に支配された・時空と～自分（を考えると）」の意を正確かつ簡潔に解答化すること。ただし「沈黙に支配された」という比喻のママでは、不可

二 無意味だと述べたケージは、火口を眺めて気圧されていた筆者たちに、若干の視点の変化をもたらしたただけであるということ。

* 「かれは」は、単なる「ケージは」のみでは説明になっていない。「ケージの『nonsense! バカラシイ』（無意味だ）という言葉は」という意味を、前問同様に**正確かつ簡潔にまとめる**。

* 「ただちょっとした振動をあたえたにすぎない」＝筆者たちの意識のありようを**少しゆさぶった（＝視点の若干の変化、等）**の意。「振動」（動揺、ずれ）のニュアンス、「ただちょっとした～にすぎない」のニュアンスを正確に反映させること。

三 フランスの音楽家たちは、異質の音源であるガムランを西洋の音楽表現の論理に組みこむ、創作への活用を考えたということ。

四 筆者は、宇宙と会話するという老人の何も見えない影絵を眺めるうち、意識を超えた宇宙の一端に接した気がしたということ。

* 公開された東京大学の「出題意図」には、「言語化しがたい宇宙との交感をあえて言葉で表現しようとするレトリックを読み解き、それを簡潔に表現できるかどうかを問いました。」とある。それが結論意味段落の問い（四）に反映されている。出題者の言う「言語化しがたい宇宙との交感」は、「何も見えない」スクリーンで「宇宙と会話している」老人の態様に暗示されている。そして、筆者自身が「何か」を「そこに見出したように思った」と記しているのは、「何か」（不定形）・「～ように」であるから、「言語化しがたい」ことを「あえて言葉で表現しよう」としているのである。東大の出題意図から明らかに、武満徹の文章でも強引に音楽に言及などせず、客観的な読解を心掛けたい。